



ジャガー・ルクルトが、デュオメトル・カンティエーム・ルネールを 新たに解釈したモデルを発表

- デュオメトル：計時精度への革新的なアプローチ
- 初のステンレススチール製デュオメトルモデル - 新しいケースデザイン
- 複数の装飾仕上げが際立つディープブルーのダイヤル

画期的なデュオメトルのコンセプトをベースにした初のタイムピースであるデュオメトル クロノグラフが 2007 年に発表されて以来、このシステムは複数の複雑機構と組み合わせられ、極めて正確な計時を特徴とする技術的に優れた時計として、その名を残してきました。2024 年、ジャガー・ルクルトはデュオメトルタイムピースの新たな世代を発表します。その中には、デュオメトル・カンティエーム・ルネール（ムーンフェイズ）を新たに解釈したモデルが含まれます。初のステンレススチール製デュオメトルモデルは、人目を引くブルーのダイヤルと新しいケースの組合せによって、タイムレスで特徴的なデザインがまさに現代的な雰囲気に仕上がっています。

完璧なエネルギー供給の確保

2007 年のデュオメトルの発明によって、ジャガー・ルクルトの技師や時計職人は、複雑な機械式時計の根本的な問題を解決しました。その問題とは、複雑機構が動作するために、香箱から輪列を經由して脱進機へ供給されるエネルギーを抜き取る必要があるという点です。これによって当然ながら恒常的な動力供給に影響を及ぼし、精度が損なわれます。

創業当初からの創意工夫の証として、ジャガー・ルクルトの時計職人はすでに 19 世紀にこの問題の解決策を模索しており、1881 年の懐中時計のキャリバー19/20RMSMI では、香箱を 2 つ搭載しました。しかし、二重香箱のキャリバーではまだ問題の解決にはいたっていません。なぜなら、計時と複雑機構を動作させる輪列は共通であり、どちらの香箱もその輪列に動力を送るためです。

しかし、そのキャリバーは、マニュファクチュールの 21 世紀の技師や時計職人に革新的なデュオメトルのコンセプトの出発点を与えました。デュオメトルシステムは、1 つの脱進機に接続されている 2 つの「流れ」、つまり、計時のための香箱と輪列、そして、複雑機構のための香箱と輪列に、動力供給を完全に分けることによって、複雑機構の動作の有無に関わらず絶対的に安定した動力供給を保証します。



キャリバーの精度を強調する、デュオメトル・カンティエーム・ルネールのダイヤルの特徴的な要素は、6 時位置のサブダイヤルで回り続けるフドロワイヤント針です。このフドロワイヤント針は、(60 秒で 1 回転する「標準的な」秒針に対して) 1 秒間に 6 回「ジャンプ」して 1 回転するため、1/6 秒単位で正確に計測することが可能です。

美しさへの精緻なアプローチ

ジャガー・ルクルトにとって、精度の追求は正確な計時に限らず、デザインや仕上げの美しさを追求することも同様に重要です。デュオメトル・カンティエーム・ルネールのディープブルーのダイヤルに組み込まれた、逆ピラミッド型に配置された 3 つのサブダイヤルの対称的なレイアウトと非常に細く長い針は、すべてのデュオメトルモデルのシグネチャーです。3 時位置のサブダイヤルは時刻を表示し、3 時、6 時、9 時、12 時位置にアラビア数字が植字されています。また、9 時位置のサブダイヤルは、日付を針で表示し、青い空を背景に月相を表示します。フドロワイヤント針のサブダイヤルは、2 つのサブダイヤルの下の 6 時位置に配されています。

ダイヤルはいくつかのセクションで構成され、様々な仕上げが目を引きコントラストを生み出します。オパーリン仕上げのメインダイヤルは非常に柔らかな輝きで、装飾技巧による視覚的な奥行きが特徴です。ダイヤル下側のサンレイブラッシュ仕上げが洗練された雰囲気を加えます。このサンレイ模様を背景に弧を描くオパーリン仕上げの 2 つのパワーリザーブ表示が目を引きます。

歴史的なタイムピースに採用されていたセクターダイヤルのデザインから着想を得て、それぞれのダイヤルを囲む幅広のリングにサンレイ仕上げが施されています。ダイヤルの周囲の凸曲面は、ダイヤルを保護するサファイアクリスタルガラスの輪郭にぴったり合わせてあります。また、サブダイヤルは表面からわずかにくぼんでおり、奥行きのある印象を与えます。

透明なサファイアクリスタルのケースバックから眺められるムーブメントの仕上げも、精緻に対するメゾンのアプローチの証明です。キャリバーの大部分に施されたオープンワークは、デザインおよび技術的な目的を兼ね備えており、時計職人は 374 個の部品をより簡単にセットし組み立てられ、また、機構内部を奥まで眺められるようになっています。

ブリッジにはサンレイ仕上げのコート・ド・ジュネーブ装飾が施されており、ムーブメント全体の視覚的な統一感を生み出しています。この装飾は絶対的な精度が要求される技法です。なぜなら部品を一点一点装飾し、かつ、ムーブメントを組み立てたときに、调速機構の中心からキャリバーの端まで完璧な放射状のストライプ模様が描かれなければならないためです。

新しいデュオメトルのケース：伝統から着想を得た現代的なエレガンス

2024 年に 3 つの新しいデュオメトルを発表するジャガー・ルクルトは、コレクションのために全く新しいケースをデザインしました。19 世紀にジャガー・ルクルトが製造したサボネット懐中時計を



現代的に解釈した丸みを帯びた輪郭は、魅力的な外観であると同時に非常に心地よい感触です。

(フランス語の「サボネット (savonette)」は文字通り、手のひらにすっぽりと収まり、丸みを帯びた小さな円形の石鹸を意味します。) 凸状のクリスタルと優美な丸みを帯びたベゼルを備える新しいデュオメトルのケースは、この文字どおりの定義を非常によく表現しています。また、リューズも新たにデザインされ、操作を楽しめる丸みを帯びた深い刻み目が付いています。実際、シャープなラインはポリッシュ仕上げのラグのエッジだけです。

快適な装着感の直径 42.5mm のケースは、34 個の部品で構成される複雑な構造です。ラグは一体型ではなく、ねじ込み式のため、複数の仕上げを施すことができます。ポリッシュ仕上げ、サテン仕上げ、マイクロブラスト加工の表面を組み合わせることによって、腕を動かすたびに光と影が魅力的に交錯します。

デュオメトル・カンティエーム・ルネールを新たに解釈したモデルは、ブルーのダイヤルとステンレススチール製ケースによって、技術的に洗練されたタイムピースが非常に現代的な雰囲気に仕上がっています。このモデルは、高級時計の伝統に対する深い敬意に支えられた、ジャガー・ルクルトの精度へのあくなき追求と核心の精神を見事に体現しています。

技術仕様

デュオメトル・カンティエーム・ルネール

ケース：ステンレススチール

サイズ：直径 42.5mm x 厚さ 13.05mm

キャリバー：手巻ジャガー・ルクルト製キャリバー381

機能：時、分、センターセコンド、1/6 秒針、ムーンフェイズ、日付、パワーリザーブ 2つ

パワーリザーブ：各香箱につき 50 時間

表ダイヤル：ブルーオパール

防水性：5 気圧

ストラップ：小さな鱗模様入りのアリゲーターストラップ

リファレンス：Q604848J



ジャガー・ルクルト - ウォッチメーカーの中のウォッチメーカー™

1833 年以來、ジャガー・ルクルトは、革新性と創造性への抑えきれない渴望に導かれ、故郷ジュウ溪谷の平穏な自然環境からインスピレーションを得て、複雑機構への熟練した技術とその精度で際立った存在となっています。ウォッチメーカーの中のウォッチメーカー™として知られるマニユファクチュールは、1,400 を超えるキャリバーの制作と 430 以上の特許を通して、その絶え間ない革新の精神を表現してきました。ジャガー・ルクルトの時計職人たちは、190 年にわたる蓄積された専門知識を駆使して、最先端の精密なメカニズムの設計、製造、仕上げ、装飾を行い、何世紀にもわたるノウハウと情熱を融合させ、過去と未来をつないでいます。時代を超え、常に時と共にあります。180 種類もの専門技術がひとつ屋根の下に集結したマニユファクチュールは、その技巧に、デザインの美しさを独特で控え目な洗練を組み合わせ、高級時計に息吹を吹き込んでいます。

jaeger-lecoultre.com